

2026年度 事業計画書

【第14期】

自：2026年4月 1日

至：2027年3月31日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

2026年度 事業計画書 目次

	頁
I. 本年度の基本方針	・・・1
II. 事業及び活動の計画	
はじめに	・・・2
1. 普及啓発・支援活動	
(1) 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営	・・・2
(2) 機関誌の発行	・・・2
(3) 漢字文化啓発イベント	・・・2
(4) 助成	・・・3
(5) 支援活動	・・・3
(6) Webサイトの運営	・・・3
2. 調査及び研究活動	
(1) 漢字文化研究	・・・3
(2) 日本語・漢字教育研究	・・・4
3. 日本語能力育成活動	
(1) 日本漢字能力検定（漢検）	・・・4
(2) BJTビジネス日本語能力テスト（BJT）	・・・5
(3) 文章読解・作成能力検定（文章検）	・・・6
(4) 学習支援講座	・・・7
(5) 教材の発行	・・・7
III. その他	・・・8

事業年度：2026年4月1日～2027年3月31日

I. 本年度の基本方針

伝統ある日本文化の発展の過程において、日本語・漢字は、文化の伝達と進展を根幹で支えてきました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会（以下、当協会）は、「社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるとともに、我が国における生涯学習（※1）の振興を通じて日本文化の発展に寄与すること」を目的としています。

当協会は、日本語を使うあらゆる年齢層・国籍の人々にとって、我が国で日常使用される言語であり日本人の思考の土台となっている日本語・漢字に対する理解を深めることが、人々の円滑かつ的確な意思疎通につながり、より豊かな生活・社会の実現につながると考えています。

2026年以降も当面VUCA（※2）の時代は継続するとみられ、人々の価値観やコミュニケーションも多様化することが予想されます。この「変動性」「不確実性」「複雑性」「曖昧性」は教育にも影響を与えており、次期学習指導要領に向けた議論では、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むため、①「主体的・対話的で深い学び」の実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保の3つの方向性が基本的な考えとして示されています。また、「学習の基盤となる資質・能力」として「言語能力」と「情報活用能力」が挙げられ、特に「言語能力」はすべての学習を支える基盤として重要な役割を果たすとされています（※3）。

学校現場では、教育の質を高めるために、教員の業務負担を軽減する「学校の働き方改革」やICTを活用した学びを進める「GIGAスクール構想」（※4）、さらに学校業務のデジタル化（学校DX）が加速しています。

このような社会背景や教育現場の改革を踏まえ、当協会では日本語・漢字能力は全ての学習の基盤となる能力であると定義し、2026年度から新たな中期計画をスタートさせます。

2026年度は既存事業の見直しや顧客接点のデジタル化を前提に、柔軟な製品・サービス開発を通じて、顧客のニーズに迅速に応え、日本語・漢字の新たな学習動機の創出に向けた取り組みを推進してまいります。また、各サービスの価格を改定し、より一層検定の質的向上を図るとともに、検定や各種手続きのデジタル化による利便性向上を実現してまいります。

2026年度も様々な環境変化に対応しながら、日本語・漢字を学ぼうとする人々の期待に応えられるよう、各事業活動の充実に取り組んでまいります。

（※1）改正教育基本法第三条「生涯学習の理念」（全文掲載）

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

（※2）VUCA: Volatility=変動性、Uncertainty=不確実性、Complexity=複雑性、Ambiguity=曖昧性の頭文字。

（※3）出典：文部科学省『教育課程企画特別部会 論点整理』

（※4）1人1台のデジタル端末と高速ネットワークを整備し、ICTを活用した学びを進める国の施策。

当協会は、公益目的事業として、以下の事業を行っています。

● 事業

- （1）日本語・漢字に関する普及啓発・支援
- （2）日本語・漢字に関する調査及び研究
- （3）日本語・漢字に関する能力育成
- （4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

II. 事業及び活動の計画

はじめに

我が国における生涯学習の振興と日本文化の発展に寄与するため、「普及啓発・支援」「調査及び研究」「日本語能力育成」の各活動を、有機的に結びつけた相互補完関係を保つ一つの事業として展開し、あらゆる人々の日本語・漢字の理解・運用能力の向上に向けた“学び”を支えます。

1. 普及啓発・支援活動

社会生活に欠かせない日本語・漢字に対する興味関心と尊重の念を高め、生涯にわたって学習する動機付けや豊かな言語生活が営まれる環境等を整備するため、次に掲げる（１）～（５）の手段により、普及啓発・支援活動を行います。

（１）漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営

漢字に対する興味関心を高め、不特定多数の人々の“学び”の動機付けや促進につなげることを目的に、漢字に関する資料・情報の収集や展示、発信を通じて漢字の“面白さ”“楽しさ”“奥深さ”を体感しながら学べる「漢字ミュージアム」を運営します。
来館者は8.0万人を想定しています。

① 開館時間：午前9時30分～午後5時

② 休館日：毎週月曜日（休館日が休祝日の場合は翌平日に振替）・年末年始
※臨時休館する場合があります。

③ 入館料（税込）：

	A料金：平日				B料金：休日・長期休み			
	大人	高・大学生	小・中学生	未就学	大人	高・大学生	小・中学生	未就学
個人	900円	600円	400円	無料	1,000円	700円	500円	無料
団体割引	800円	500円	300円	無料	900円	600円	400円	無料
障害者手帳割引	半額	半額	半額	無料	半額	半額	半額	無料
	大人	高・大学生	小・中学生	未就学				
年間パスポート	2,800円	1,900円	1,300円	---				

* B料金には夏・冬・春休み期間中の平日や連休中の平日を含む場合があります。

- ・子ども同伴割引（小中高生と同伴の大人は300円引※小中高生1名につき大人2名まで）
- ・障がい者の介助者割引（入館料1名免除）

④ 企画展の開催

当館収蔵物の展示のほか、漢字文化の理解促進を目的として様々な視点を取り入れた企画展を開催します。年3回程度の実施を計画しています。

⑤ ワークショップの実施

館内でのワークショップを開催するとともに、機会に応じ出張ワークショップやオンラインワークショップも行います。

（２）機関誌の発行・Webサイトの運営

① 漢字および日本語の学習を助け、さらなる興味関心を高めてもらうために、無料で漢字・日本語を検索できるサイト「漢字ペディア®」を運営します。

② 漢字・日本語への興味関心を高めてもらうために、漢字・日本語の身近な話題や有識者の

コラムを掲載するウェブサイト「漢字カフェ®」を運営します。

③ 新しい学習指導要領に記述がある「言語活動の充実」に資するため、言語活動の充実を図るための指導に取り組む先生方に情報を提供する会員制サイト「TEACHannel®」を運営します。

④ 各団体の学習目標達成や課題解決のために、検定（漢検・文章検）や各協会コンテンツをより効果的に利用いただくための「団体サポートサイト」を運営します。

（3）漢字文化啓発イベント

以下の啓発イベントを行います。

① 「今年の漢字®」

広く一般の人々に漢字の持つ奥深さ、素晴らしさを再認識してもらうため、年末に全国から「その年の世相を表す漢字一字」とその理由を募集し、最も応募数の多かった漢字を「漢字の日」である12月12日（*）に京都・清水寺貫主の揮毫により発表します。

*今年度は12日が土曜日のため、前後の平日の発表とし、決まり次第、発表します。

② 「第14回 今、あなたに贈りたい漢字コンテスト」（文部科学省他後援事業）

大切な人へ想いをこめた漢字一字とメッセージを贈るコンテストを実施し、全国から作品を募集します。2013年より実施しており、回を重ねるごとに単なる漢字文化の啓発だけでなく、道德教育としての意義も認められてきています。

応募作品の中から、部門別に文部科学大臣賞・協会賞・審査員賞・佳作を選考し、文部科学大臣賞の4作品の中で最も優れた一作品が絆大賞となります。また、応募団体の中から団体賞を選考します。受賞作品および受賞者は、ホームページを通じて発表するとともに、年度末に京都にて授賞式を開催し表彰します。

（4）助成

「漢字まなび活動助成制度」

日本全国における漢字学習の振興を目指し、各地域の団体が行う非営利目的の漢字学習振興に寄与する活動に対して、活動費用の一部（活動費用の1/2以下、1団体あたり年間60万円、活動1件あたり上限30万円。年間総額300万円程度）を助成します。

（5）支援活動

経済的、環境上の理由により、検定の受検や漢字学習が困難な児童生徒に対し、漢字検定の受検機会や学習教材の無償提供等の学習支援を行います。

[対象]・義務教育段階における要保護世帯の児童生徒

・厚生労働省の定める児童自立支援施設・児童養護施設・児童心理治療施設に在籍する児童生徒

2. 調査及び研究活動

漢字ミュージアムの開館とともに設立した漢字文化研究所を中心に、日本の漢字を日本文化の側面から詳らかにする調査研究や、日本語教育・漢字教育およびそれぞれの検定・テストの質的向上に資するため、次の（1）～（2）の2部門で調査・研究を行います。

（1）漢字文化研究

① 顕彰（漢検漢字文化研究奨励賞）

漢字研究、漢字に関わる日本語研究、漢字教育等、広く漢字文化に関わる分野における優れた学術的研究論文・調査報告等に対し、漢検漢字文化研究奨励賞を贈り、顕彰・奨励します。2006年より実施しており、今年で21回目となります。

最優秀賞：100万円 優秀賞：50万円 佳作：30万円

② 日本漢字学会との連携

漢字文化を多岐にわたって研究するために2018年3月に発足した日本漢字学会の事務局機能を担いながら、学会に所属する全国の漢字研究者および有識者と連携し、研究活動を推進します。

(2) 日本語・漢字教育研究

① 研究助成（漢字・日本語教育研究助成制度）

漢字・日本語教育の質的向上に資することを目的に、学校教育法に定める各学校の教職員、およびこれらの教職員で構成される研究会等が行う漢字・日本語教育の研究活動に対して研究活動費を助成し、意義ある教育活動を社会に公表します。2006年より実施しており、一時休止期間を経て今年で19回目となります。

1テーマ50万円以内（例年、5テーマ前後の採択結果となっています。）

② 検定の質的向上と能力判定の妥当性を高めるため、また漢字・日本語学習の質的向上に資するため、以下の分析を行います。

- ・ 出題妥当性の検証
- ・ 受検者の誤答傾向の調査
- ・ 一般に使用される語句の調査
- ・ 京都大学との研究プロジェクト「ライフサイクルと漢字神経ネットワークの学際研究」「人工知能（AI）による漢字・日本語学習研究」の成果をいかした研究

③ ことばの学びを支援する教材開発のために大学研究者と共同研究を行います。

- ・ 「認知診断モデル」を応用した評価ツール開発
- ・ 文章生成等のAIツールを用いた「ことばの学び」の支援

3. 日本語能力育成活動

日本語・漢字に興味関心を持った人々に学習する機会を広く提供するため、講演会、研修会、セミナー、教材の発行等を行います。また、学習の達成度を測る検定試験を実施し、能力の定着と伸長を図り、さらなる学習意欲を喚起します。

(1) 日本漢字能力検定（漢検）（文部科学省他後援事業）

単に漢字を「読む」「書く」という知識量のみを測るのではなく、漢字の意味を理解し、文章の中で適切に使う能力を測定するための検定を3つの方式、PBT（Paper Based Testing）、CBT（Computer Based Testing）、オンラインで実施します。

① 実施日

PBT受検：2026年度は、年間14日程実施します。

回	公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
第1回	2026年6月21日（日）	1～10級	2026年6月12日（金）	2～10級
			2026年6月21日（日）	2～10級
			2026年6月27日（土）	2～10級
			2026年7月10日（金）	2～10級
第2回	2026年10月18日（日）	1～10級	2026年8月20日（木）	2～10級
			2026年10月18日（日）	2～10級
			2026年10月23日（金）	2～10級
			2026年10月24日（土）	2～10級
			2026年11月6日（金）	2～10級
第3回	2027年2月14日（日）	1～10級	2027年1月22日（金）	2～10級

		2027年 1月30日(土)	2～10級
		2027年 2月5日(金)	2～10級
		2027年 2月14日(日)	2～10級
		2027年 3月7日(日)	2～10級

C B T受検 (2～7級) : 個人受検のみ。都合のよい日程と会場を選んで受検が可能。(実施日と開始時間は会場によって異なる。)

漢検オンライン (2～10級) : 個人受検は、毎週日曜日。(※除外日あり) 団体受検は、団体で自由に設定が可能。

② 志願者数予測

級	人数	級	人数	級	人数
1級	2,900名	3級	279,300名	7級	86,200名
準1級	14,900名	4級	154,000名	8級	85,300名
2級	104,100名	5級	132,200名	9級	74,900名
準2級	169,100名	6級	86,900名	10級	60,800名
合計					1,250,600名

③ 検定会場・会場数予測

- ・ 個人受検 (P B T公開会場)
全国47都道府県の主要約120都市(約140会場)
- ・ 団体受検 (P B T・漢検オンライン準会場)
団体申し込みの学校・企業等(約18,000会場)
- ・ C B T受検 (公開会場)
全国47都道府県の公開会場(主要約170都市約250会場)

④ 検定料 (P B T・C B T・漢検オンライン)

(税込み価格)

実施区分		1級	準1級	2級	準2級～4級	5級～7級	8級～10級
公開会場	PBT	6,700円	6,200円	5,200円	4,200円	3,700円	3,200円
	CBT	---	---	4,800円	3,800円	3,200円	---
自宅	漢検オンライン	---	---	4,800円	3,800円	3,200円	2,700円
準会場	PBT	---	---	4,200円	3,200円	2,700円	2,200円
	漢検オンライン	---	---	3,800円	2,800円	2,200円	1,700円

⑤ 各種表彰制度

受検者の学習意欲の向上を目的として、満点を取得し合格した受検者には「満点合格証書」を発行し、家族で受検し合格した方への「家族受検表彰制度」並びに受検団体内での表彰を支援する「表彰支援制度」を実施します。また、広く漢字学習に取り組んでいる人の努力を賞し、励みとする目的で、成績優秀な個人および団体を表彰します。

(2) B J Tビジネス日本語能力テスト (B J T) (文部科学省他後援事業)

主に日本語を母語としていない人々を対象に、文法・語彙・漢字等、日本語の言語知識があることを前提とした上で、それらを活用し、与えられた情報に対処できる、日本語によるビ

ジネス・コミュニケーション能力を客観的に測定するテストをC B T形式で実施します。

① テスト実施日

テスト会場の開設日時に応じて随時受験可能

② 志願者数予測

実施地	人数
日本	5,100名
海外	3,100名
合計	8,200名

③ 実施地

日本：約50都市 約70会場／海外：20の国・地域、約50都市約60会場

④ 受験料 8,000円（税込、日本国内）

※海外での受験の場合は、各国・地域で定めた受験料

⑤ 問題数と時間 80問 約105分

(3) 文章読解・作成能力検定（文章検）（文部科学省他後援事業）

社会で必要とされる論理的文章能力の養成を目標として、日本語の能力を基礎力・文章読解力・文章作成力の各側面から測る検定を実施します。なお、文章読解・作成能力検定（準2級、3級、4級）は、文部科学省が推進する「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツールに認定されています。

① 実施日

2026年度は、年間6日程実施します。

公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
2027年2月14日（日）	2～4級	2026年 7月15日（水）	準2～4級
		2026年 10月30日（金）	準2～4級
		2026年 11月13日（金）	準2～4級
		2027年 1月29日（金）	準2～4級
		2027年 2月10日（水）	準2～4級
		2027年 2月14日（日）	2～4級

※各団体において、受験者の実力を測り、指導に役立てられるよう、検定実施日以外の任意の日時・場所で実施することができる文章力テストを提供します。

② 志願者数予測

16,300名

③ 検定会場・会場数予測

- ・個人受検（公開会場） 東京・大阪・名古屋の3会場
- ・団体受検（準会場） 団体申込の学校・企業等（約150会場）

④ 検定料

(税込み価格)

実施区分	2級	準2級	3級	4級
公開会場	6,500円	5,500円	5,500円	4,500円
準会場	5,500円	4,500円	4,500円	3,500円

(4) 学習支援講座

① 漢字・日本語講座

日本漢字能力検定の上位級（1級・準1級）に合格した上で、さらに漢字・日本語の学習に励みたい方のための研鑽・交流の場として、希望登録制の「漢検 生涯学習ネットワーク」を組織しています。このネットワークでは、会員を対象にメールマガジンを定期配信し（2025年12月末時点会員数約7,442人）専門的知識や能力育成を目的としたイベントを開催いたします。また、漢字に関する知識を保有し、講師や学習サポート役が可能な方々のプロフィールをホームページ等で公開し、学校や地域等の要請に沿う方をご紹介する等、地域における漢字・日本語講座の開催を支援します。

② 学習支援セミナー

日本語・漢字の能力の着実な習得や伸長を図るため、各自治体の教育委員会や学校を通じて有用な学習法や指導法等の提案、情報提供を行う学習支援セミナー（参加無料）を開催します。また、企業からの要望を受けて、文章能力を軸とした論理的思考やコミュニケーションに関する組織内研修としての学習支援セミナー（有料）も開催します。

(5) 教材の発行

広く一般の人々に対し学習の機会を提供する手段として、教材や参考書を発行し、全国の書店や教育現場、協会の公式オンラインストアを通じて提供します。本年度の販売冊数は76.8万冊を見込んでいます。

2026年度も、新たなコンテンツの提供に向けて、調査、開発を進めます。

① 検定・テストに対応するもの

日本語・漢字の運用能力を向上させるために、検定試験の各級に対応して学習するものや分野別に学習する教材を提供します。

[漢 検]	12シリーズ	80種類
[BJT]		1種類
[文章検]	3シリーズ	12種類

② 日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

小学校に入る前の幼児から学生、社会人や高齢者までが、生涯にわたって様々な学習を継続する上で基礎となる漢字・日本語に興味関心を引くことのできる学習コンテンツを提供します。

『漢検の絵本 いちまるとふしぎな手』 『さわって！あそんで！みんなの漢字』

『あっちこっち さがそ！漢字はっけんずかん』

『漢字謎解き ナゾクエスト 伝説の宝箱をさがせ！』

『マンガで体験！にっぽんのカイシャ ビジネス日本語を实践する』

『それ、知りたかった！カイシャの日本語～マンガで学ぶ ビジネススキル&ボキャブラリー～難易度別語彙表 付き』

『7日でチャレンジ 文章作成ワーク』

『漢検漢字辞典第二版』 『漢検四字熟語辞典第二版』

『漢字学ことはじめ』（日本漢字学会編）

『いちまるLINEスタンプ』*漢検公式キャラクター

③ デジタル教材

PCやスマートフォン、タブレット、ゲーム機器などを活用した学習教材をソフトウェアメーカー各社と共同開発、また、自社開発によるコンテンツを提供します。

また、ビジネスシーンで必要とされる論理的文章能力の法人向けアセスメントツール「論理的文章力トレーニング Assessment」、学習ツール「論理的文章力トレーニング Learning」を提供します。

④ 電子書籍

電子化した書籍を提供します。

『漢検の絵本 いちまるとふしぎな手』

『マンガで体験！ にっぽんのカイシャ ビジネス日本語を实践する』

『BJT ビジネス日本語能力テスト 公式 模擬テスト&ガイド』

『漢検漢字学習ステップ』

『漢検過去問題集』

『漢検分野別問題集』

『漢検 分野別 精選演習』

『新装版 漢検 10日間でできる練習問題』

『これでなっとく！ 漢検 クイックスタディ』

『いちまるとはじめよう！ わくわく漢検』

『漢検要覧』

『基礎から学べる！ 文章力ステップ』

『文章検 公式テキスト』

『文章検 過去問題集』

『それ、知りたかった！ カイシャの日本語～マンガで学ぶ ビジネススキル&ボキャブラリー～難易度別語彙表 付き』『7日でチャレンジ 文章作成ワーク』

⑤ コンテンツ開発

・京都大学との研究プロジェクト成果を生かし、高齢者向けの認知症予防支援コンテンツの開発を継続します。

・大学研究者との共同研究を生かし、文章推敲支援サービス「つむぎAI」モニター募集を継続します。また、新たにWEBコンテンツ「読み能力育成・測定サービス（仮称）」を開発します。

III. その他

特記事項なし。

以上